プロレタリア通信 No.4 1969.4.共産主義者同盟書記局

斗争スケジュール

※4/8(月) 王子野戦 北区豊島 8pm 6都田公園

※4/15(月) 4(木) ベトナム反戦。倒閣。榎本虐殺糾弾 総評ゼネスト 東京諸塞 6pm 6日比谷公園

※4/16(水) 王子野戦粉砕 70年安保阻止 労学都民総決起集会 B北部地区委主催

※4/21(日) 70年安保ベトナム国際反戦総決起集会 自治会 総評 社会党 全国反戦 日比谷

※4/26(金) 国際反戦統一行動 B全学連 防衛庁攻撃 反戦全学連中央執行委

5/4(日) 沖縄デー B反戦全学連中央執行委 首相官邸攻撃斗争

5/4(日) メーデー

スローガン

イ、ベトナム人民の民族解放社会主義を、先進国労働者人民の自国帝国主義打倒の反戦斗争で実現せよ！

ロ、アメリカ黒人を先頭とする、米労働者人民の反戦斗争と連帯し、世界同時革命の突破口を日本労働者人民は創り出せ！

ハ、日帝の一切のベトナム侵略＝反革命を粉砕し、本格的アジア侵略＝国内侵略体制＝自主防衛＝国益路線と対決し、自衛隊の帝国主義軍隊化阻止！自相官邸＝防衛庁攻撃斗争を展開せ！

二　沖縄米軍政打倒　基地撤去、
　　核付き返還粉砕　自衛隊の派遣粉砕！

目　次

I　情勢と4/26、4/28斗争の位置づけ

II　4・26、4・28斗争の組織方針

III　4/15王子野戦斗争と、4/16「王子野戦粉砕、労学都民決起集会」について

IV　成田斗争について

[illegible]

四月下旬、三大連続斗争を我々が斗い抜く視点は、

(イ) 米帝国主義とベトナム人民をめぐっての国際階級斗争を如何なる方向に導くか、(ロ) ドラスティックな国際至高政治情勢の推移のなかで、日帝の大規模的攻撃動向の確認 及びそれにもとづいて分エンブラ粉砕成田、王子、沖縄等諸斗争を如何に貫徹するか、全体的に統合するかである。その基本点は次の如くである。

① ジョンソンの北爆部分停止―大統領辞任を条件としての和平交渉提案がなされ"平和"が新たつこあるのの如くみえる。だがこの新平交渉ベトナム人民の米帝の一帰、民族解放―社会主義の要求を切り捨てるものであり、ベトナムの分断固定、及び南ベトナムの亜属の米軍とクイラ軍による一段の専政的軍事的抑圧の手段としての民族解放を強いるものである。更に全国的階級斗争の国家要求、米帝国主義のソ連を巻込んでの政治反革命体が一歩後退して、[illegible]ことである。(米帝が全洋―アジアから一歩後退し、日帝が新たにそこに登場する)。だから国際反戦斗争の追撃は決して、北爆停止―米軍撤退から和平交渉―米ソ大国引の方向による帝国主義的平和の方向に導かれては決してならない。南北ベトナム人民は英雄的斗いを極限で展開している。彼らが和平交渉から反動的平和に集約されるかあるいは彼らの自身の問題であると同時に、すぐれて先進国労働者人民の国際帝国主義の侵略と反革命政策の動揺に切り込み、自国帝国主義の敗北を要求する斗いが如何程展開されるかにかかっている。先進国労働者人民の革命的反戦斗争の推進こそが、ベトナム人民を勇づけ反動的をとりぞけ、かつ中国人民の世界革命根拠地国家(この点、中国共産党の政策、指導能力である)への左翼的をとけさせる唯一の方向である。米帝国主義は片側的な軍事的支配に堅持し、北に向け一挙的な北爆体を維持しつつ、和平のテーマルにつこうとしている。そして日本帝国主義は、かつて反革命軍事力を片方で全面的に安定つつあるばかりか、和平交渉をして、自らアジア侵略の事

所体制に向け最大限利用こんとしている。

従って我々の闘争を強く確認されねばならぬことは、かくる和平交渉の物質的力は米軍事行動力と日帝の侵略＝反革命推進を粉砕し、国際的国家間政治の収斂を目指し、[illegible]時事的に、[illegible]の互譲の両者に対し、[illegible]事命の波に転換せしめることである。

② 米帝国主義は北ベトナムに入りつつある。米はヒロシマ革命の資産[illegible]ある。全面的[illegible]平―軍事―政治面にあるとの路に入り込んでいる。[illegible]帝国主義からの反撃ポール、福岡県、肥大化した[illegible]の国際的の[illegible]可能、自国内部からの反戦斗争、[illegible]人乱、等で彼等はちく太平洋アジアに於て、[illegible]アジア、ベトナム島など后退し、やがて、[illegible]その[illegible]を成就することを考え、米大陸からつづく国際[illegible]に転換し、国内階級斗争と[illegible]日本への分離政を準備する。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

最今のベトナム攻撃斗争は、現在の黒人反乱を引き起こし、より大規模な反乱へと導かれる可能性を増大させつつある。

我々と米人民を先頭とした自国帝国主義打倒の斗いは、ラオスのベルリン決議での17ヶ国の十分な決起斗争やコーゴ、チェコ等で明確になりつつあるベトナム反戦斗争をとおしてベトナム和平要求斗争から世界革命へ転換させるだろう。以上よりみる28の反戦全学連を先頭とする労働人民の国際的任務は和平要求を拒否した世界同時革命の綱領を引き受ける決定的任務を背負いつつある。

③ かくる国際情勢国際階級斗争の発展過程に対して、日本帝国主義の根底的崩壊、そして米、西欧、日本の本格的市場再分割戦争の進展に見合って、アジアの独自の勢力圏形成、帝国主義の日本人のなぐり込み等に対抗を一層推進することである。

佐藤―福田ラインは米帝の動揺に驚き、自らの対米"従属"的外交路線を再検討しつつ、その内実＝アジア勢力圏形成―国際反戦斗争強化、そのものの実現をはかる方向に大きく比重をかけつつある。彼らは、日韓台からインドネシアに橋頭堡を延ばし、イ下に対抗しアジア諸国の米帝に対する不信と自帝への期待の高まりに応えんとしている。すでにスハルトを招請し、三木は第三回東南アジア開発会議に出席し、その構想を具体化せんとしている。対米従属外交からの脱皮の要求は自民党内野党の新政策綱領グループ公然と提起されはじめている。かつ米帝の撤退方向について、日本はアジア侵略―自主防衛―ナショナリズムの環＝対学連のブランを強引に米帝に要求している。以上ここ数日の我々の分析である。

またアジア侵略―アジア侵略体制構築論が「ベトナム―米」情勢と密着し一層進展しつつある。このことである。

彼らの攻撃の基礎は「ベトナム和平」を掲げつつ、アジア事実の事実としての日本支配しつつ自主防衛―自主外交＝国際的孤立の事実することである。沖縄核付き返還―自衛隊海外派遣―核武装―徴兵制を環に、アジア侵略の国家体制構築のテンポに進展し、この攻撃は戦后の体制的再編を根本的に再編し、上からの主義ブルジョア独裁権力樹立の体制的転換を要請することを得ない。

于26～于28の日本労働者人民の国際的―国内的任務は、第一に米人民と連帯し、とりわけ米黒人反乱に呼応して、国際的反戦斗争の波を世界同時革命の方向に転換させる前衛的任務を第二に、自主防衛―国際路線に真向から対決して自衛隊の帝国主義化の中軸を成す防衛庁＝首相官邸攻撃を課題することにより、アジア侵略と侵略体制整備の野望を粉砕すること。第三に一～二月段階での個別政治斗争の激発を日帝の綱領的―　せしめるために、この斗争に主軸に沖縄、成田、王子を組み込むことである。

云うまでもなく、28沖縄人民のゼネストと呼応して「沖縄米軍政打倒、基地撤去核付き返還反対、自衛隊派遣反対」が自主防衛、国際路線に対置されねばならぬ。また成田農民を中央に結集し、日帝の綱領路線と彼らの斗争を結合し、その反戦―全学連とのプロレタリア的綱領を基礎にボーリングを打ち込み阻止の5～6月斗争を整備すること。

王子斗争は、ほぼ運動の第3の転換を迎えつつある。斗いの方向は決して安保体制打倒を選択にしたベトナム

〔II〕 四二六！二八の組織方針

(イ) 王子型攻防的な所位方―首相官邸めざし実現せよ！ラジル―全学連の組織された軍事部隊の機動隊への正面戦ゲリラ戦、四系反戦部隊の連携指動動（デモ組織これを投石戦もし）至中核に混乱の中での、大衆の巻き込み、攻撃―后退―進撃の繰り返しを通した徹夜攻防戦を用意せよ！決して過去の合法デモの繰らかの戦斗化を提起して行動を変えるな！正規戦―ゲリラ戦の繰返しの中での内乱的状況を創出せよ！

(ウ) 四二八中央斗争に全国青年労働者学生は結集せよ！「中央結集斗争は東京の力が足りない」「東京の斗争がみたい」或いは代表派遣でいい」等のエピソード的戦術ではなく、全国的政治流動し全国的内乱形成がすべて中央権力斗争による引き起された軍隊の全国化のサイクルとして創出されること、それ故このサイクルを意識的に実現せしめる為首相官邸斗争の意義を明確に打ち出し、大衆を引きつれて中央に全力で結集せよ！

(エ) 反戦青年妻をめぐる関係の再編に奮闘し、反戦の第一の組織的対応を強めよ！

社青同解放派、解放派を結成しようとする地区一本化、協会と和解、社会党、人文研の全面的右翼路線へ転化、協、ロロ系反戦、全学連排除、ゲバ棒斗争否定、特にこの動きは3/10以降激化

○第七回中核派 4/26成田斗争でもつてわくとも反戦闘系に於ては 中核全学連、中核青反戦の結成による単独路線を追求

○解放との提携路線からオリ回大会路線を主と左派路線の確立し解放派の右傾化と対立、以上二つの闘争も階級斗争と再編上斗太く名称とともに三派の(反帝派、スタ派、社民派)の政治直線運動に変化している。三つ巴の分派斗争に対応すべく、行革全学連、全国地区反戦連合運動の事業にとりかからねばならぬ。

四/二六、二八斗争で同盟系反戦は所位方・首相官邸をめざす 独自のヘルメット隊列を登場させよ!

(1)四、二八 東京150 関西150 地方30の反戦部隊を登場させよ!

(d)現場での一切の政治活動を4/26、28斗争に徹底し取り場反戦を築けく、地区党を基礎とし地区反戦を大衆化せよ!

(e)討議資料を持ち込み、現場討論を起し青年部の決議を獲得しうる地区反戦反戦貿会に現場から動員せよ!

地区反戦担当は地区反戦貿会を開催し、工場ビラ入れ、現場まわりをそれに集約せよ!

(f)同盟は4/4マデに討議資料(イロハプリ)、ポスター、ステッカーを作成する。これ等を現場に持ち込め。

(g)指導部し行動隊は「青年部」を指導系統を反戦ブロックを開催し、確立する。

(III)4/29野外集会、王子野戦病院、労年安保阻止、学生、住民総決起集会の件について

(a)多くの斗争と多様な集会は、反戦、全学連において引き起こされた。原発、市民の自然発生的登場に対して現地の部隊の同盟員は基礎に「日帝のアジア侵略反対の立場に反対を集結させることにある。それは地区労動員、住民の左派の同盟地区党による集結になる可能である。これは16斗争は(1)地区協議化(2)野戦斗争の反帝民族斗争として徹底化と4/26、29人民的課題との結合 の二つの意義をもつ。 第五回は全力をあげよ!

(b)4/29集会の構成—規模

主催—地区市民会、場所 滝川公園、時間午後6時、構成略

規模—都委150、SSL300 住民50名

(c)組織委員会 (仲—杉田 事務局—畑 地区—羽川学

対—小森

(1)学組ビラ入れ(全千葉連、都職)、斗争過程での宣伝、宣伝カー、ステッカー、ポスター。地区語同盟のガルゲ SSLの作成での大量宣伝部隊としての機能

(2)ヘルメット、指揮棒3/9に完成—都委学対は直ちに組織化に着手せよ!

(IV)成田現地と4/28を結合し、ボーリング阻止の体制を固めよ!

(a)現地反対同盟を3/28反戦全学連の隊列に結集せよ

こと。4/28前后同盟政治集会をもつこと。

(b)青同のブント化を徹底し、下からの左派の旗を掲げ反帝戦略部隊を着実に作りあげる!

(c)5—6日のボーリング粉砕に向け再度全同斗争を開催すること。

(d)以上に向け現地対策本部を更に強化するべく政治局員を中心に同志と都委、学対及運対—名 5名による人員の増員決定した。

青同の指導部オルグし、千葉県委員会を発足させる予定である。

—完—

（5ページ上段より）
和平の方向に導かれてはならず、4大〜3大闘争と北部地区委員会、反戦宣伝活動を媒介に日帝のアジア侵略―侵略体制整備との非和解的対決の方向で前設阻止闘争がすすめられねばならぬ。

「日帝のベトナム侵略―反革命の赤軍戦略粉砕」が我々のスローガンである。

④ 現段階のドラスティックな情勢を見なげず誤謬派は「ベトナム和平の追撃闘争」に　している。社会党―総評は「ベトナム和平」「対米従属佐藤政府倒閣―安保体制打破」のブルジョア和平主義そのものである。社、共、中核、社青同解放などを含み、日民党の自主防衛路線を左からとらえ、アベック闘争に導き手となりつつある。

彼らの小ブル平和主義―日民主義路線を　の情勢を踏まえ徹底的に闘争で批判せよ！

（5ページ下段へ）